

(3)「7年以上15年未満」

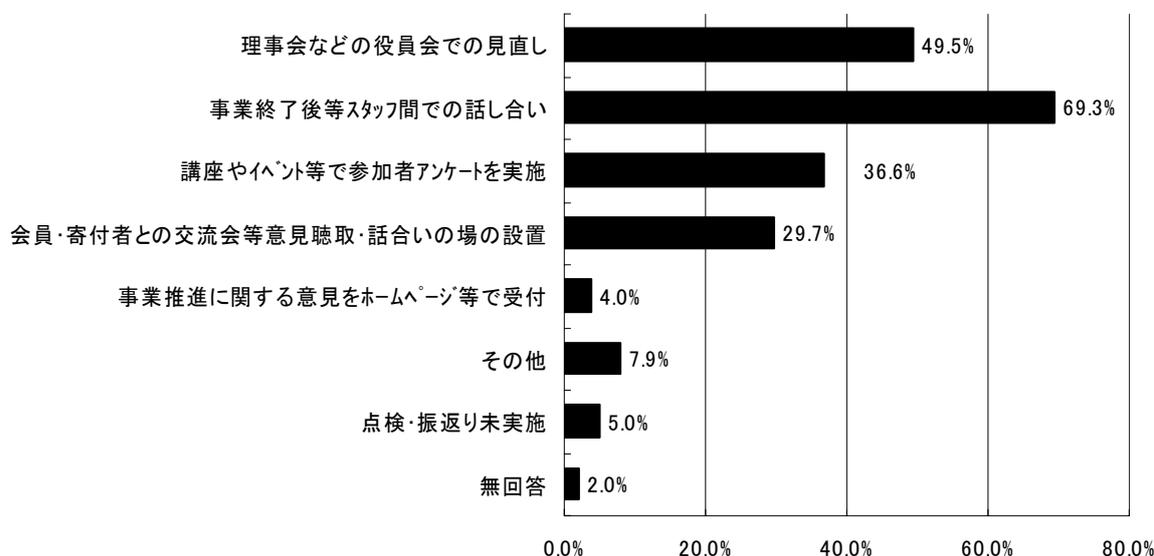
58.0%の団体が「関わりなし」と答える。関わりのある団体では「その他」(14.0%)が最も多く、具体的には「リサイクルにおける協働事業」、「就労事業への協力支援」といった事業連携が見られる。その次に「人的支援」及び「物的支援」(8.0%)が続く。

21-1 事業の点検・振り返りの実施状況(複数回答)

[全体]

実施事業の点検・振り返り方法を質問したところ、「事業終了後等にスタッフ間で話し合う」(69.3%)が最も多く、「理事会などの役員会で見直しを図る」(49.5%)がそれに続く。「講座やイベント等で参加者にアンケートを実施」している団体は全体の約4割であり(36.6%)、「会員や寄付者との交流会など、意見聴取、話し合いの場を設ける」団体は3割弱(29.7%)にとどまっている。点検・振り返りが自己組織内にとどまり、活動に対する賛同者等からの第三者の意見聴取は、3割前後にとどまる状況がうかがえる。

21-1 事業の点検・振り返りの実施状況(複数回答)
合計(N=101)



[活動年数別]

(1)「3年未満」

「理事会などの役員会で見直し」(58.8%)や「事業終了後等にスタッフ間で話し合う」(64.7%)傾向がある。「会員や寄付者との交流会など、意見聴取、話し合いの場を設ける」割合も35.3%と3区分の中で最も高い。

(2)「3年以上7年未満」

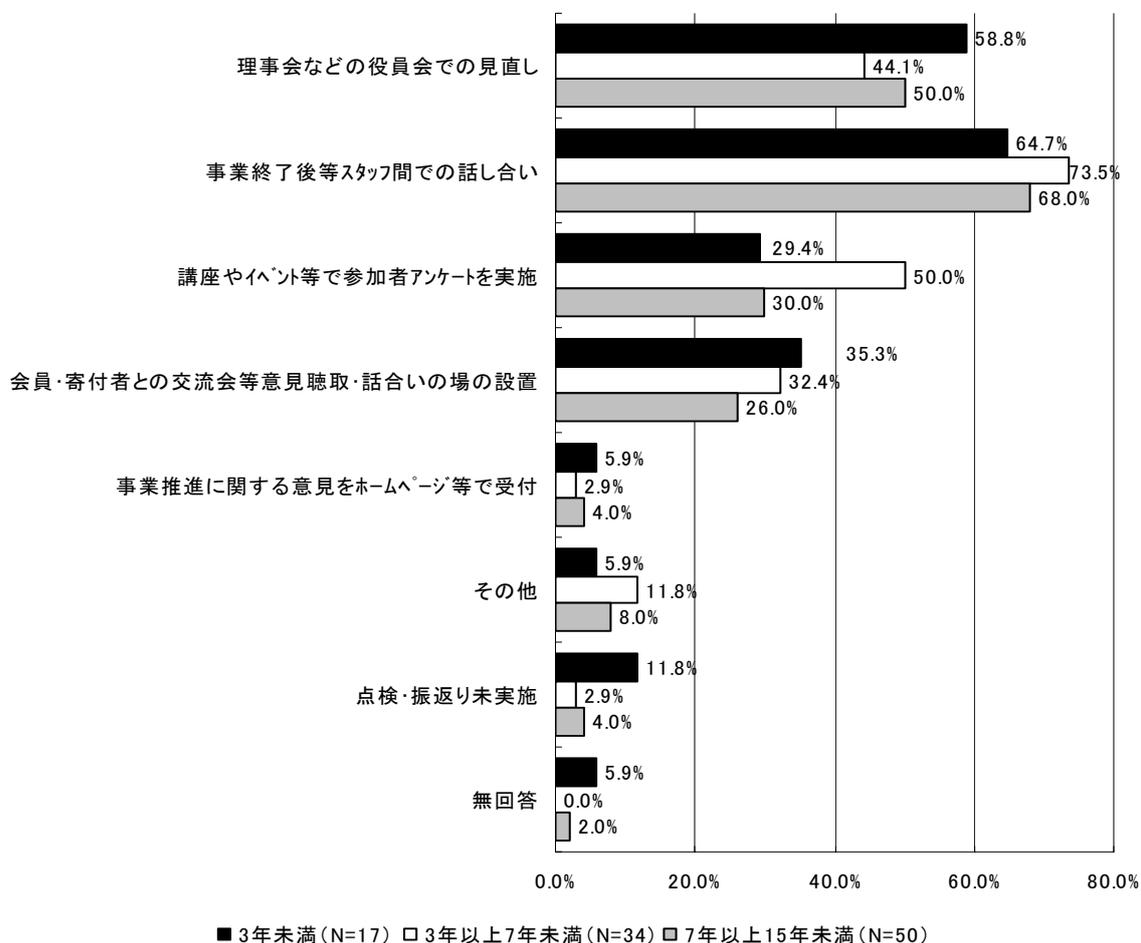
「3年未満」に比べ「理事会などの役員会で見直し」する割合が14.7ポイント下がり(44.1%)、「事業終了後等にスタッフ間で話し合う」割合が最も高い(73.5%)。「講座やイベント等で参加者にアンケートを実施する」割合が50.0%と3区分の中で最も高いのも特徴的である。

(3)「7年以上15年未満」

「理事会などの役員会で見直し」(50.0%)するより、「事業終了後スタッフ間での話し合う」(68.0%)傾

向があるが、その割合は「3年以上7年未満」より5.5ポイント低い。「講座やイベント等で参加者にアンケートを実施する」割合も同様に低く(30.0%)、全体的にみても活動への賛同者・参加者からの意見聴取割合が低くなっている。

21-1 事業の点検・振返りの実施状況(複数回答)



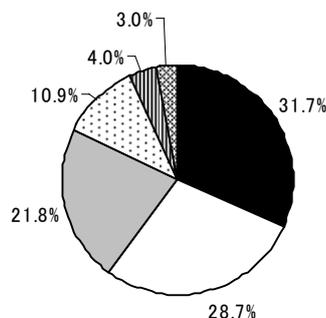
21-2 団体設立時と比較した際の事業規模の拡大状況

〔全体〕

「拡大」していると答えた団体が31.7%と最も多く、「やや拡大」(28.7%)がそれに続く。続く7割の団体が「拡大」していると答えていることがわかる。

他方「現状維持」は約2割、「やや縮小」を含む「縮小」は15%にとどまる。

21-2 事業規模の拡大状況
合計(N=101)



■ 拡大 □ やや拡大 □ 現状維持 □ やや縮小 ■ 縮小 ■ 無回答

〔活動年数別〕

活動年数が長くなるにつれ「やや拡大」を含む『拡大』と解答する傾向にあり、事業が拡大している傾向にある。

(1)「3年未満」

「現状維持」と回答する団体が 35.3%と最も多いがこの層の特徴である。次いで「拡大」「やや拡大」がともに 23.5%であり、47.0% が『拡大』していると答えている。

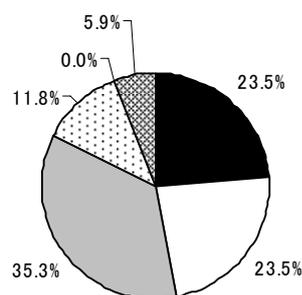
(2)「3年以上7年未満」

「やや拡大」と回答する団体が 35.3%と最も多いのがこの層の特徴である。次いで「現状維持」(26.5%)、「拡大」(23.5%)と続く。『拡大』は「3年未満」の団体より 11.8ポイント増の 58.8%となっている。

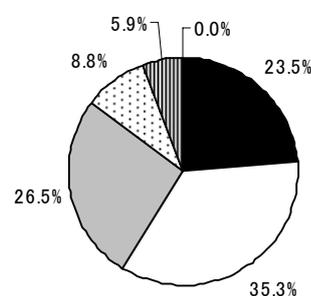
(3)「7年以上15年未満」

「拡大」との回答が 40.0%と最も多いのがこの層の特徴である。そのあとに「やや拡大」(26.0%)、「現状維持」(14.0%)と続き、『拡大』は「3年以上7年未満」の活動層よりさらに 7.2ポイント増の 66.0%となっている。

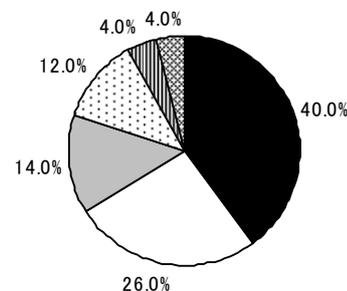
21-2 事業規模の拡大状況
3年未満(N=17)



3年以上7年未満(N=34)



7年以上15年未満(N=50)



■ 拡大 □ やや拡大 ▣ 現状維持 □ やや縮小 ▤ 縮小 ▥ 無回答

21-3 その要因(自由記述、21-2で「現状維持」「やや縮小」「縮小」と答えた団体のみ)

〔全体〕

人材に関すること、その中でも「活動メンバーの高齢化」を要因に掲げる団体が最も多い。また、家庭や健康上の問題から退会する者、活動メンバーが社会人のため活動に費やす時間が制限され、思うように活動ができないことを挙げる団体がそれに続く。

〔活動年数別〕

(1)「3年未満」

活動の未熟さを理由とする団体が最も多く、家庭や健康上の問題、資金不足と続く。団体が理想とする事業規模で長く活動継続することに重点を置いているため「現状維持」と答える団体もある。

(2)「3年以上7年未満」

高齢化が主な要因であるが、若年期と比較して新たに計上されている事項は、「PRがうまくいっていない」といった「広報」の問題、「通年活動内容に変わりがない」「状況により変化する」といった活動スタンスによるものが、新たな要因として挙げられている。

(3)「7年以上15年未満」

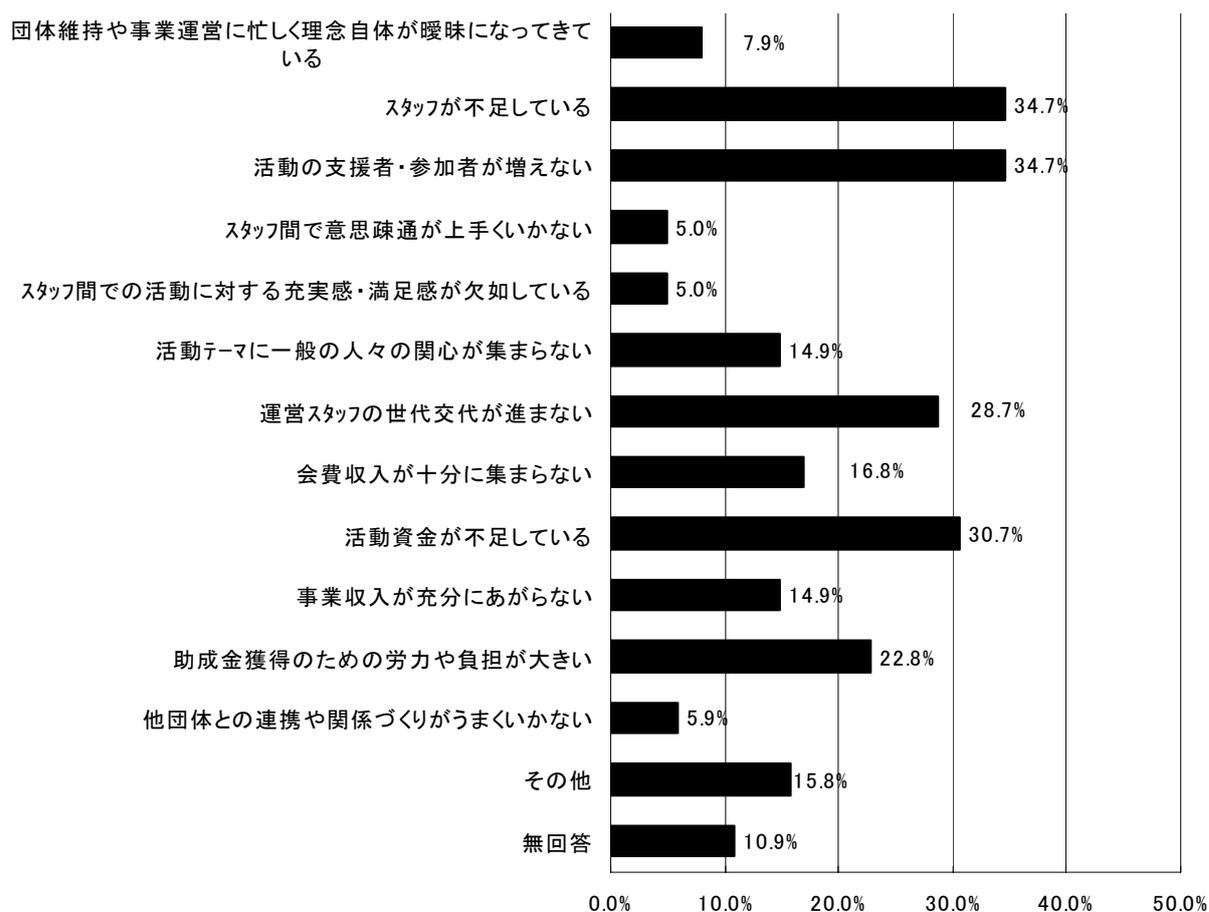
高齢化などにより人材確保が難しいことを問題として挙げているのに加え、ミッションに照らした事項、「会の方向性主旨がはっきりしてきたため」「設定した目標が達成されたことによる事業の縮小」が新たな要因として挙げられている。

22 現在団体が抱える課題・問題点(複数回答)

[全体]

「スタッフが不足している」「活動の支援者・参加者が増えない」が同率で最も高く(34.7%)、「活動資金が不足している」(30.7%)、「運営スタッフの世代交代が進まない」(28.7%)、「助成金獲得のための労力や負担が大きい」(22.8%)がそれに続く。

22 現在団体が抱える課題・問題点 合計(N=101)



〔活動年数別〕

(1)「3年未満」

「活動の支援者・参加者が増えない」が最も多く(41.2%)、「活動資金の不足」「助成金獲得のための労力や負担が大きい」(35.3%)、「スタッフが不足している」(29.4%)が続く。

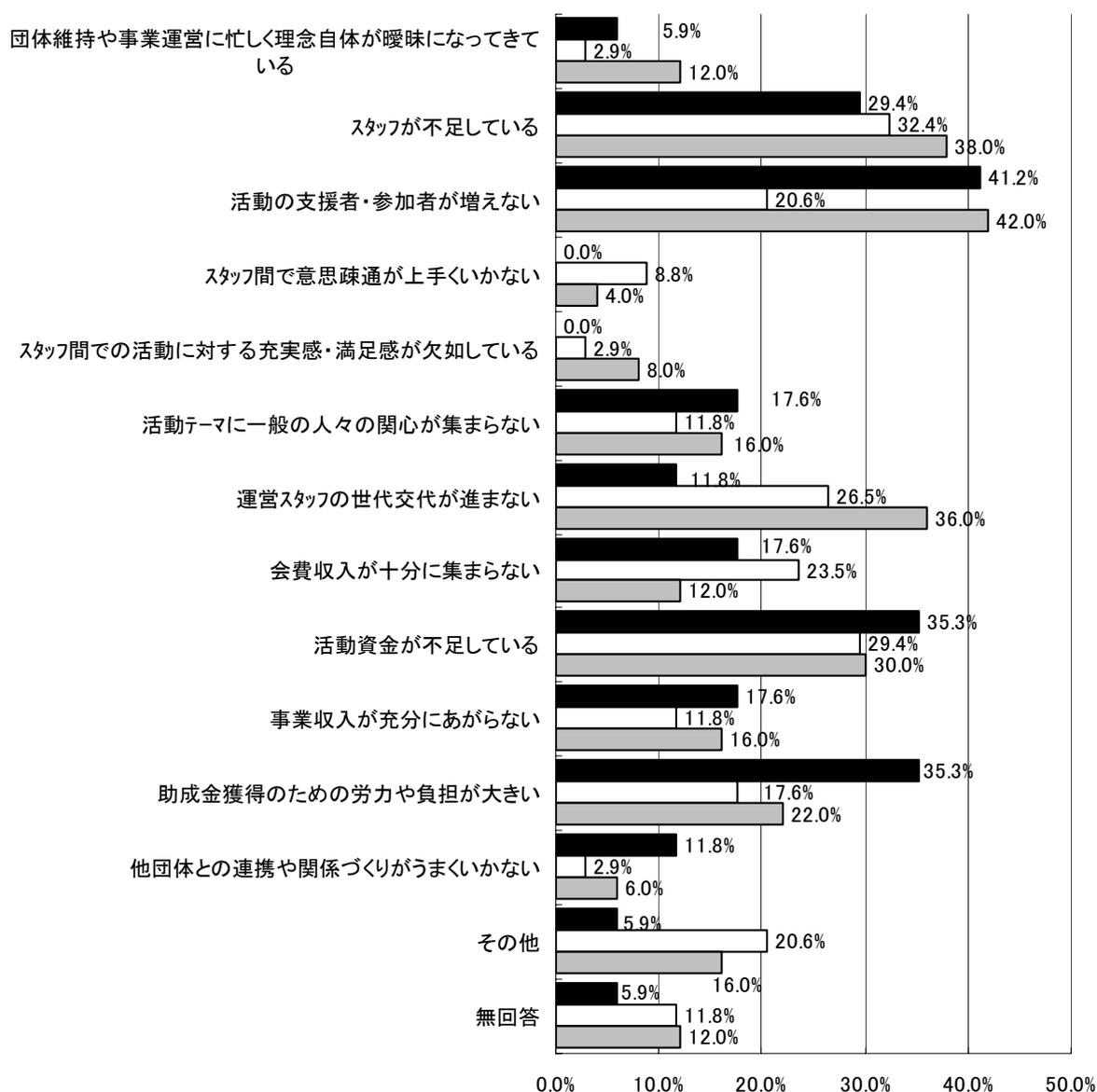
(2)「3年以上7年未満」

「スタッフが不足している」が最も多く(32.4%)、「活動資金が不足している」(29.4%)、「運営スタッフの世代交代が進まない」(26.5%)、「会費収入が十分に集まらない」(23.5%)が続く。

(3)「7年以上15年未満」

「活動の支援者・参加者が増えない」が最も多く(42.0%)、「スタッフの不足」(38.0%)、「運営スタッフの世代交代が進まない」(36.0%)、「活動資金が不足している」(30.0%)が続く。

22 現在団体が抱える課題・問題点（活動年数別）



■ 3年未満 (N=17) □ 3年以上7年未満 (N=34) ▨ 7年以上15年未満 (N=50)